

再スタート3年目の“Fukuoka”、世界へ走り続けるランナーたち

記者会見で選手たちがそれぞれの目標や意気込みを語る。

大会2日前の11月29日、下記の招待選手8人が出席して記者会見が行われた。

ビダン・カロキ（トヨタ自動車）

マイケル・ギザエ（スズキ）

其田健也（JR東日本）

西山雄介（トヨタ自動車）

吉田祐也（GMOインターネットグループ）

西山和弥（トヨタ自動車）

高久 龍（ヤクルト）

土井大輔（黒崎播磨）

出席した選手たちが福岡出場を決めた理由やレースでの目標をどう話したかを紹介する。

●「歴史のある福岡を走りたかった」（其田）「2時間06分30秒は切って当然」（西山雄）

ビダン・カロキ「良い練習ができています。日曜日（レース）の目標はベスト（2時間05分53秒）を出して3番以内に入ること。できれば優勝したいと思っていますが、3番以内には絶対に入りたい」

マイケル・ギザエ「私は福岡（の高校）出身で友だちも多く、毎年福岡に出場すると応援してもらって頑張っています。今年はケガが多かったのですが、痛みがあっても練習は頑張ってきました。ディフェンディング・チャンピオンとして、日曜日はディフェンド（タイトルを守る）したいです。自己ベストとなる2時間6分台にチャレンジしたい」

其田健也「歴史のある福岡を走りたいと思っていました。（来年の東京世界陸上参加標準記録の）2時間06分30秒は1つの目標で、切るための準備はしてきました。しかしタイムは当日のコンディションによるので、優勝だけを目標に頑張ります。（日本人参加選手唯一の2時間5分台を持つが）自分の走りに集中して行きます」

西山雄介「予定していた練習は全て消化してきました。福岡の歴代優勝者にトヨタ自動車の先輩の、服部勇馬さんと藤本拓さんがいます。トヨタ自動車として縁起の良い大会です。前回の東京マラソンではやりたかったレースができませんでした。それをするために練習してきました。やりたかったレースをして強さを見せたい。2時間06分30秒は切って当然だと思っています」

●「世界陸上を目指す上ではあくまでも挑戦者」(吉田)「沿道の応援の方々に成長した姿を見せられれば」(土井)

吉田祐也「世界陸上の内定を取ることと、優勝争いをする観点から福岡を選ばせていただきました。2020年に優勝させていただきましたが、世界陸上を目指す上ではあくまでも挑戦者ですので、心機一転、挑戦者の立場で優勝争いをしたいと思っています。2020年は無観客で寂しかったのですが、今回はたくさんの方々が来てくださると思いますので、日本トップレベルの選手と戦える喜びを感じながらレースを進められればと思っています。目標は優勝です」

西山和弥「練習自体はできているのにレースで結果を出せないことが続いています。それを払拭したい意気込みがあります。雄介さんのコメントにもありましたが、先輩の服部選手や藤本選手が優勝したレースの印象が強い大会です。2時間06分30秒は簡単な記録ではないので、覚悟を持ってチャレンジしていきたい」

高久龍「(今年4月に不整脈の治療のため)手術をしましたが、少しずつ試合に出て、練習も順調に消化することができています。マラソンでどのくらい走れるかは未知なので、今持っている自分の全てを発揮する、そういう心構えできました。2時間06分30秒は自己ベストより上のレベルですし、今回の福岡で実力をしっかり試し、その先に見える景色だと思っています」

土井大輔「福岡国際は地元の大会。家族や地域の方々、会社の方々が多く応援に来てくださると思うので、成長した姿を見せられればと思います。タイムに関しては気象コンディションやレース展開に左右される部分が多いので、まずは勝負に徹したい」

●レース終盤まで優勝争いがもつれる展開になるか？好記録にも期待

会見時には大会事務局からペースメーカーの設定タイム予定も公表された。中間点の通過タイムとターゲットタイムは以下の通り

第1集団：1時間2分台半ばの中間点通過で2時間5分台目標

第2集団：1時間4分前後の中間点通過で2時間8分前後目標

レース当日の気象状況で変更することもあるが、第1ペースメーカーは1km2分58秒で走ることになる。会見に出席した選手は全員、1時間2分台で中間点を通過するマラソンは経験している。数年前なら身構えていたペース設定だが、今の選手たちにとっては普通のペースだろう。有力選手が今回のように集まれば、ペースメーカーが外れる30km以降も競り合いが続けやすくなり、風が無風に近ければ好タイムが十分期待できる。終盤に運悪く向かい風が吹いたときは、それを克服して勝つことができた選手が本当の強さをアピールすることになる。